

会 議 録

会議の名称	令和 6 年度第 2 回那珂川市文化芸術推進審議会		
開催日時	令和 7 年 3 月 19 日(水) 18:00～19:30	開催場所	中央公民館 講堂
出席者	1. 委員 須川委員、田北委員、簗原委員、柴田委員、鳥部委員、関岡委員 (欠席)長津委員、森委員 2. 執行機関(事務局) 吉岡文化振興課長、藏菌文化振興課文化振興担当係長、 渋谷文化振興課文化振興担当主任主事、 小林文化振興課文化振興担当主事		
配布資料	・資料 1 那珂川市文化芸術推進計画 令和 6 年度実施報告 ・資料 2 那珂川市文化芸術推進計画 アクションプラン(R7～10)(案)		
公開区分	開示 ・ 一部開示 ・ 非開示 (理由:情報公開条例第 9 条第 2 号に該当)		
議題及び審議の内容			
1. あいさつ			
2. 報告事項について（市文化振興課より説明）			
[会 長]：何かご意見等あればお願いしたい。			
[会 長]：ニーズ調査の結果はおよそいつ頃を目途に進めているところか。			
[事務局]：5 月の半ばを最長の期間として進めている。集まったところから集計をし、次年度 1 回目の審議会の時期は調整中であるが、その際に皆様に結果としてご報告をさせていただければと考えている。			
[委 員]：文化芸術イベントカレンダーは、掲載するのは良いが、掲載してその後どう評価をしていけばいいのか。たとえばカレンダー経由でそのイベントに参加したというのが分かるものか。			
[事務局]：現時点でイベントカレンダーから参加頂いたかどうかを集計する等はできていないが、たとえば今後のやり方として、何かイベントを打ったときにアンケートを実施し、アンケート項目に「どこでお知りになられましたか」のような項目を入れることで知ることはできると今のところは考えている。			
[委 員]：文化芸術イベントカレンダーを掲載した時に、SNS などで情報発信をする等は何かしているか。			
[事務局]：SNS との連動は今のところできていない。			
[委 員]：では密かに更新されているということになる。市ホームページのトッ			

ブページからイベントカレンダーに行けるのか。

[事務局]：文化振興課のページから行くか、検索をするかの 2 択になるため、おっしゃるとおり SNS からのアクセス数を増やすというのは今後の検討材料になると思う。

[委員]：やはり何かを実施するのであれば、意義のあるやり方で実施をした方がよいと思う。今は部署のページに情報を掲載するということを「したといえぱした」形だが、果たして、文化芸術イベントカレンダーから発信する方がいいのか、SNS で情報発信する方が目指していることを達成できる可能性もある。何がやりたいのかということ判断する上でも、たとえばアクセス数を調べてみるなどしてみても良いのでは。もちろんデータを見てみないことには分からないが、恐らくほとんど見られていない可能性がある。もしも見られていないのであれば、それを淡々と進めて「やった」ということの報告だけになってしまうとなかなかもったいない。よりよくなるということを念頭に置いた取り組みになるとよいと思う。

[会長]：ちなみに、文化芸術イベントカレンダーのイベントというのは、「庁舎内のイベントならびに市内の公共施設でのイベント等」とあるが、およそどれくらいの規模か。たとえば「ミリカローデン那珂川でイベントがあれば」なのか、はたまた「仲間内でやるイベント」などもあると思うがいかがか。

[事務局]：今掲載しているものとしては、第一に市で予算化しているイベントがある。また、市で予算化していないイベントでも、たとえば博多南駅前ビルや中ノ島公園・ミリカローデン那珂川のイベントで、市の事業ではない施設等の自主イベントも載せている。その中でサークル等が実施するイベントなども、ホームページに情報があればそことリンクさせる形で市の事業以外のものも掲載をしている。ただ、おっしゃるとおり個人でされているものというのはなかなか拾いきることが難しい。

[会長]：那珂川市で活動したい・もっと広げたいという団体がお願いすることで掲載をすることもできるのか。

[事務局]：今後はそういうこともできればと考えてはいる。ただ、どのように募集をかけていくのか等は検討の必要がある。

[委員]：掲載作業は文化振興課の職員が行っているのか。

[事務局]：文化振興課職員で行っている。

[委員]：そうすると、掲載のルールを考える必要があると思う。指定管理者等の事業はおそらく載せやすいが、個人まで広げるとなると、基準をどうするのだろうという問題が出てくる。個人まで広げるのかどうか、文化協会加盟団体は基準として分かりやすいが、加盟団体以外についてはどうすくうのか、あるいはすくわないのかというルール作りが難しい。

[会 長]：全部 OK にしてしまうと、それはそれで大変だろうと思う。

[委 員]：今イベントカレンダーの話が出ているため、市のホームページと Instagram を見ているが、やはり探ろうと思わないと見つからないという感じがする。今流行っている居酒屋やカフェなどは、全部 Instagram で今日開いているかどうかや今月の定休日などが分かるようになっている。イベントカレンダーと言われるともう少しワクワク感が欲しいと思うが、今はただ文章が一覧で載っているだけで、たとえばジャンルで色分けされている等、「知りたい人」というよりは「何気なく覗いた人」が「こういうのあるんだ」と思えるようなものになるといいと思う。

[会 長]：Instagram もあるのか。

[事務局]：Instagram は市で広報担当がメインで更新をしている。

[委 員]：市の Instagram については、終了したイベントの写真が事後報告のような形で上がっている感じがある。

[会 長]：このあたりの話題は令和 7 年度の SNS の利用のところにも関わってくる。

3. 審議事項について（市文化振興課より説明）

[会 長]：令和 7 年・令和 8 年の実施内容について、来年度はあくまで体験等の「検討」であり、令和 8 年から実際には事業実施ということになるのか。

[事務局]：そのとおり。今進めているニーズ調査アンケートの集計結果をここに反映させていくことでの実施を考えているため、そういった意味でも 7 年度は検討の年としている。

[委 員]：事業実施の予算について 7 年度はまだついておらず、検討されるということか。

[事務局]：検討の年のため、7 年度について予算はついていない状況である。

[会 長]：検討について、事業に向けたリサーチなどはどのようにするか。

[事務局]：イメージとしては、ニーズ調査の結果集計後、調査の中で各施設・学校からご意見を頂くため、「こういうことをしてみたい」という具体的な意見があれば、そこについて施設等へヒアリングなどを行い、来年度のいつからどういう内容をしていくのかなど実施に向けての詳細をつめていくような形で考えている。ただ、施設数が多く、全てを令和 8 年度に実施というのは正直難しい。数年かけて順番に対応するような形にはなるかと思う。

[委 員]：令和 7 年度に準備をして 8 年度から実施をしていくという説明だった

が、実際に8年度から企画や運営をしていくにあたって、主で関わってくれそうな方等の想定は那珂川市の方であるのか。ミリカローデン那珂川と共同して実施をしていく、またはその他文化芸術に携わっている団体等と連携していくなど、具体的な実施のイメージがあるのか。

[事務局]：今想定しているものとしてはどうしても最初の主体は市になってしまうが、学校や施設で要望を頂いた中に、たとえば和楽器で何かをしてみたいという要望があれば、和楽器を扱う文化協会サークルやミリカサークルと接点を持ち、どういうことができるかを協議で進めていくようなイメージで捉えている。

[委員]：こういったものの実施で多く見られるものとして、一体誰が主体になって進めているのかが分からなくなるというのがある。巻き込まれたのはいいが、主体的に誰かが責任持って実施をするとなると、もちろん市が中心になると思うが、たとえばミリカローデン那珂川で類似の事業をやったことがある人がメインになる等でないと空中分解してしまうパターンを見てきた。そのあたりのメンバーや座組は、実施する上では成功するか、それとも思った結果につながらなかったとなってしまうかが分かれるところだと思う。令和8年度からの実施ではあるが、その部分は走り出す前に何か組んでいた方がいいと思う。

[会長]：間を誰が取り持つかというのは非常に重要であるため、その部分も含め検討をしていく必要がある。

[委員]：これからの動きとしては、アンケートの結果を経て、事業を単発で市の主催としてやっていくのか。その場合、単発の事業がただ並んでいくだけになってしまうが、市のグランドビジョンとしてはどういうところを目指していくのか。今後検討していくところだとは思いますが、たとえば社会包摂、「障害のある方が生き活きと暮らせるまちを目指す」などの形にするのか、「ニーズがあるところに単発で実施をする」のかなど、目指すところについては今後検討した方がいいと思う。単発で事業を実施する形だと、実施して報告しての繰り返しで、お金をかけたのに目に見える効果や形がなく、結果的に一体何が残ったのかとなりかねない。

[会長]：ニーズを聞いて対応するというのは最もだが、そもそも文化芸術への関心が薄い市民に働きかけをするとなると、選択肢をそれほど持っていない可能性があるため、そのあたりの塩梅が難しい。知らない文化芸術にアクセスさせるということも考えないと、ニーズの方に引っ張られるばかりになってしまう。

[委員]：そもそも文化芸術への関心が薄い層を巻き込みたいというところもあったかと思うが、そこについてはアンケートにより確認をしようとしている福祉・教育などの分野と必ずしも重ならない方もいると思う。アクションプランを見ていると、関心が薄い層への周知活動だけではな

く関心が薄い層が実際に実施をする仕掛けも必要なのではと感じる。関心が薄い層にどうアプローチするのかという逆算が必要になってくると思うがここについてはいかがか。

[事務局]：まず知ってもらうところが大前提にはなる。そこからたとえば体験事業を打つ中で、関心が薄い層にも何かしら引かかるものをこちら側が示せればと考えてはいるが、実際に周知から体験に持っていく流れが果たしてうまくいくのかとも思う。

[委員]：そこを想定したものも考えつつ、周知にも力を入れて広がっていけば。

[事務局]：ご意見はおっしゃるとおり。関心が薄い層に周知を行ったその先の実施についても、このアクションプランの中にきちんと含め、1つの流れとして今の状態で想定ビジョンとして示すというのが理想の形だが、そこまで至ってない。いただいたご意見については踏まえて進めていきたい。

[会長]：次年度の意見交流会はどういった形をイメージしているか。

[事務局]：参加者の想定としては、文化芸術に実際に関わっている方はもちろんのこと、そうではない一般の方・市民の方にも広く参加いただきたいと考えている。様々な方に参加頂いた中で、今活動をしている方・していない方を含めて、那珂川市でどういうことをしてみたいか、現在していること・今後してみたいことのビジョン等を話してもらうような想定。令和8年度実際に体験事業をしていく想定として、7年度の交流会ではそこについて意見をいただきたい。

[会長]：計画策定時に実施したワークショップのようなものを想定しているということか。「今後の那珂川をどうしていきたいか」のような。

[事務局]：そのとおり。前回のワークショップでは10年後のビジョンという大きい話をしていたと思うが、それをもう少しフォーカスを絞った話し合いができればと考えている。

[委員]：元々計画の中で、3つの「ひろげる」「ささえる」「つなぐ」というキーワードがあったと思うが、このプランを見ると「計画」という項目の中に「ひろげる」「ささえる」「つなぐ」とあれど、どれがどれに当たるのかが分かりづらいと感じる。両方に関わるもの等もあると思うが、偏りが出てくるような気がする。今読んでも、「ひろげる」「ささえる」の項目は頻繁に出てくるが、「つなぐ」については見え方に偏りがあると感じられる。計画上の「つなぐ」の項目の中には小分類で「連携」というのがあり、この「連携」については今回のプランの方にもよく出てくるが、もうひとつ「文化の継承」というところについては、プラン内に見えてきていないと感じる。せっかく計画で打ち出している3本柱の中で差が出てくると、もちろん差は出てくるものではあると思うものの、

せっかく最初に出した計画の柱があってもなくてもよかったようなものとなるのはもったいない。3つの「ひろげる」「ささえる」「つなぐ」というのがもう少し見えると分かりやすいと思う。そうすると実施している目的なども、実施する側も参加する側も分かりやすいのではないか。

[事務局]：おっしゃるとおり、具体的な活動と「ひろげる」「ささえる」「つなぐ」というのをプラン上明確に関連付けることができているところがある。その部分について見せ方の調整と、ご指摘頂いた「文化の継承」というところについては課題として検討させていただきたい。

[委員]：ニーズ調査は学校に対しても実施されているのか。実施場所の想定としては学校の中ということも考えられるのか。

[事務局]：学校も対象としており、実施場所としても学校へのアウトリーチの他、学校の中ではなく別の文化施設や公園などで実施をしてみたい等の意見があれば、それぞれについて対応を検討する形になる。

[委員]：学校現場で実施するパターンも検討内容としてはありえると。

[事務局]：ここまで話題にあがった意見交流の話、それから計画との関連性の話について、計画に基づき実施をするという部分は重要であり、当然計画から乖離してはいけない部分である。年数がたてば、働きかける我々はそのつもりでも関わる人たちがその意識が薄れていく可能性もあるため、十分気をつけていきたい。意見交換にしても、単にイベント実施のために集まってもらうわけではなく、参加者が何のために参加をし、それがどう今後につながるのかという点について、過去のワークショップにおいても審議会でご意見を頂いていた。頂いた意見にどう返していくかをしっかり事前に持っておかないといけない。ただ意見を聞くために集められ、出した意見はその後どうなったのかとならないよう気をつけていかなければと、今回のご意見を伺い改めて感じた。参加者たちがどう関わり、自身がどうやりたいことをどう実現できるのかという部分が少しでも見えるよう、実施しただけにならないように進めなければならないと改めて感じた。

[委員]：ご承知かと思うが、学校のアウトリーチ活動などについては助成金も様々ある。それも制度設計に入れられると良い。

[会長]：SNSの活用については、具体的にどのようなものを考えているか。

[事務局]：今考えているのは、ひとつ材料にできるものとして、那珂川市に伝わる伝統的なもの・活動されているもの等がある。たとえば那珂川で展開している読書推進等も、活動を知らない市民の方に知っていただくという意味で、一つのコラムとして周知の材料にできると思う。また、たとえば料理等をテーマにすることも挙げられる。今回はこれというテー

マを決めて更新していく考え。ただ更新するのはどうしても行政の職員になるため、内容に偏りが出てきてしまう恐れがある。それを解消するため、たとえばホームページ等で期間を決めて市民から案を募集することで、「市民の方が考える市の文化芸術の紹介」という形にもできると考えている。

[会 長]：SNS のコラムだと、文章を掲載する形になると思うが、媒体としては何が適切と考えられているか。それぞれの媒体に合った発信の形があり、たとえば Instagram であれば写真が主になるため、文章を多く書いてもなかなか読んでもらえないと感じる。適切にどういう媒体で発信をするかは検討した方がよい。あとは、掲載内容として、たとえば意見交流会の様子等を掲載し、こういうものに市民の方が参加していると周知していくことなどは考えているか。

[事務局]：こういった交流会を実施したという紹介として掲載・発信を行うことで、その時参加できなかった市民に活動を知っていただくことも出来ると思う。

[委 員]：SNS については私たちも非常に悩むことがあるが、広報戦略を持つことが大事だと思う。SNS も媒体によって層が違っており、たとえば Instagram と Facebook では層が違うため、どの媒体でアプローチするのが良いのかの検討が必要となる。また、SNS をご覧にならない方もいるため、紙媒体の方が良いのか等、総合的なものとして広報戦略を立てるのも大事だと思う。

[会 長]：なかなか一つの正解が見つけづらいものではあるが、検討が必要。

[事務局]：おっしゃるとおり。所謂フォロワー数や閲覧数だけで考えていいのか、どのような層に届けたいのかという部分も併せて考える必要がある。

[委 員]：文化協会でも、様々な媒体について勉強等もちろんしているが、現実として紙が見やすいという意見も出ており、紙に戻す動きもある。紙も併せて必要であると。人によって情報収集手段に個人差があり、非常に幅が広いため、様々な方法を取らないといけない現実がある。あと 20 年もすればそれもなくならないかもしれないが、今はまだそういう現状。若い方は問題ないと思うが、高齢者のことを思うと、まだ別の対応が必要な状況ではある。

[会 長]：10 年も経てばまた新しい媒体も出てくると思う。なかなか定まらないところ。

[委 員]：実施内容を具体的にどのように企画をしていくのかというところについて、広報にしても体験事業にしても、それなりの戦略が必要だと思う。ここについては、次年度以降具体的に考える必要がある。たとえば、周知活動をする目的は、「文化芸術」について知ることではない。「文化芸術」という枠組みで人は動いていないので。計画でも示されていたよ

うに、多様な文化芸術が存在する。ある人は、それを「文化芸術」であると理解せずに過ごしている人もいる。たとえば図書館に行くのは好きだけでも、文化財を見るのは苦手という人もいる。1人の市民が多様な面を持っている。その中で、文化財も好きで図書館に行くのも好きで絵を描くのも好きという人を育てるというわけではない。別に、絵を描くのは嫌いだが図書館は好きという人がいてもいい。そうしたときに戦略として、那珂川市としてどういうところにフォーカスをして推進をしていくのか、たとえば「〇〇という部分に関心を持つ人が少ないから、ここが増えるようにアプローチをする」などを考えていく必要があると思う。そういう価値があることに気づいていない人達に対し、周知活動がきっかけになり何らかの動きが生まれることもある。おそらく次年度以降、その辺りが具体的になっていくと思うが、「文化芸術」と一言で言っている、一つ一つの多様性とその中にインクルーシブな観点もあると思うため、そういうものをぜひ意識しながら形作ってもらえたらと思う。「文化芸術」という言葉で終わってしまわないよう、期待している。そういう多様な光の当て方や関わり合いの在り方が、福岡市ではなくて「那珂川らしい」となるようなイメージで、那珂川は〇〇ということについて力を入れるなど、そういう在り方の意識があるといい。ただ市だから広く何でもしなくてはいけないという考えだけではなく、文化芸術活動の取り組みや発信の中でも、那珂川市らしい濃淡が出るような形のものになると良いと思う。

[委員]: お話があった「濃淡」という表現が非常にしっくりきた。文化芸術はあまりにも幅が広い。欲張らずにある程度絞ってはいけないのだろうかとも考えていたが、「濃淡」という考えは非常に良い。たとえば今年は少し絞ってこういうことをして、次の年にはまた違うところをするなど、そういったやり方もできるのではと感じる。

4. その他

今後の進め方・次回審議会について（市文化振興課より説明）

[会長]: 以上をもって令和6年度第2回那珂川市文化芸術推進審議会を閉会する。